

## 14. トリオソルブ価を指標とする甲状腺機能の季節的変動

森田 昌功

(鳥取通信診療所・鳥取大学 放射線科)

甲状腺機能が、寒暑の気候的影響によって変動するであろうということが考えられ、PBIによる諸家の研究報告があるが、私はトリオソルブ値を用いて検査を試みた。

17才から51才までの健康な男子61名、女子163名、計224名を対象とし、寒季と暑季の2季に測定した結果、寒季群は暑季群に対して、より低値域に分布しているのが見られ、また男子37名、女子27名、計64名について行なった寒暑両季の比較検査の結果でも、寒季群が暑季群に比較して、より低値域に分布しており、その平均値は前者30.2%、後者37.6%であった。

さらに個人についての寒季と暑季のトリオソルブ値の変動は、平均男子において6.1%、女子において9.1%の差が見られた。

\*

## 15. 甲状腺癌手術症例におけるRI検査と術後の治療について

鴻池 尚 兵頭 春夫 浅井 出男

渡辺 昇 西山 健一 弘津 武久

(愛媛県立中央病院 放射線科)

甲状腺癌は乳頭および汙胞線癌が多くその発育の緩慢さ、悪性度の比較的低い点で他の臓器に発育した悪性腫瘍と比べ予後がよく、牧内らも45例中36例の80%に10年生存率をみている。

われわれの病院でも過去3年間に結節性甲状腺腫の手術例が53例でそのうち10例に甲状腺癌をみている。いずれも線癌で現在健在である。

以上の点で術後の放射線治療についてその必要を認めないという意見もあるが、手術創からの切除後の再発、周囲臓器等への浸潤のため切除が不完全な症例の再発例も3年前の症例に経験しているので、Ra針による小線源治療を切除後の全症例に行なっている。

また診断においては、 $T_3$ テスト、 $^{131}\text{I}$  uptake サイロイトテスト、性、年齢と特徴的なものはなくシンチグラム像にてその欠損部の辺縁像の不整、硬さ等に他の疾患との優位差がみられる。また触診時における所見に重

大である。

質問： 阿武 保郎(鳥取大 放射線科)

Ra針の治療部位および線量をお訊ねしたい。

答： 兵頭 春夫(愛媛県立中央病院 放射線科)

1) Ra針はOp. Narbeにそってほぼ平行に配列します。

2) Raの到達しなかった領域は $^{60}\text{Co}$ の照射を行ないます。

答： 鴻池 尚(愛媛県立中央病院 放射線科)

甲状腺癌手術後放射線治療としてラジウム針による組織内刺入を施行を手術創に沿って約1cm巾に両端約1cmの余裕を残し刺入する線量は約7000rad。症例により線量、 $^{60}\text{Co}$ 併用照射も行なう。われわれの所では電子線照射は行なっていない。

追加： 児玉 求(広島大 第2外科)

先生の御経験なされた甲状腺癌症例は、Papillary Follicular Typeであり、腫瘍摘出後Papillaryでは甲状腺末長期投与を行ない、Follicularでは経過観察するという考え方が外科ではつよい。

\*

## 展示 5. 胸部内甲状腺腫について

木村 安行

(愛媛労災病院 放射線科)

(症例) 62才 男性

2年前より、時に嚥下困難、嘔声を訴えていたが、最近になり嚥下困難がつよくなったので本科へ精査のため受診した。

〔胸部X線所見〕

単純X線像で上部中央陰影の左右への軽度の拡大像をみた。

〔喉頭造影所見〕

甲状腺による気管への圧迫像が側面、斜位像でみとめられた。

〔食道X線検査所見〕

上部食道の狭小化がみられ、第4、5、6頸椎前縁のOsteophytenによる後方からの食道圧迫像が認められる。

〔甲状腺シンチグラム、肺シンチグラム所見〕

頸部より一部上縦隔部にかけて甲状腺陰影がみられ、4日後に行なった肺シンチグラムではさらに甲状腺と胸郭の関係が明らかである。

\*